

*天文機器資料館の布袋像

天文機器資料館は、平成23年度の経費で展示の大改装を行い、展示の刷新を行った。入ってすぐの場所には一戸直蔵コーナーを作り（アーカイブ室新聞第571号「天文機器資料館に「一戸直蔵コーナー」できる（2012年3月2日）」）、展示ケース、展示フェンスを設置して、それまで手前のガラス室から見るだけであった見学が、中に入ってみることが出来るようになった。その時、筆者の「遊び心」で展示したものに「布袋様像」がある（写真1）。



写真1 天文機器資料館に置かれた布袋像

この布袋像が置かれていることに、見学者からどんな経緯があるのかという質問が、天文機器資料館に置かれた雑感帳に書かれたりする。当然であろう！天文機器資料館は歴史的な天文観測機器、乾板測定機類、日本の時刻を保持していた時計などを収蔵した博物館なのである。そこに天文学とは無縁の「布袋像」が展示されているのである。ガイドツアーでも天文機器資料館で「なぜ布袋像があるのか」と質問を受ける。そこで話せば長いかと説明をする。この布袋像の置かれた経緯は説明が必要であろう。

天文台構内には、大正4年に建てられた1号官舎が、三鷹市の施設として「星と森と絵本の家」として整備復元され、有効活用されている。この「絵本の家」に「天文学者の部屋」を再現したいという希望があり、筆者が昔の東京天文台教授の書斎にあったものをそっくり譲っていただいてその準備に手を貸したことがあった。このことについてはアーカ

イブ室新聞（2009年6月10日 第195号）に「「時」の大家、故虎尾正久教授の遺品の寄贈」という記事を書いた。この虎尾先生の遺品の中にこの「布袋像」があったのである。筆者が天文学者の部屋のために収蔵したもののごく一部は「絵本の家」に引き取られたのであるが、虎尾先生の使った書斎の机、椅子、本棚など多くのものが天文機器資料館に残されたのである。それらは収蔵庫に収蔵してあるが、虎尾先生の机とこの「布袋像」は天文機器資料館の一角に鎮座していただいているのである。

天文機器資料館には虎尾先生が開発された写真天頂筒「PZT」も置かれており、虎尾先生が東京天文台を定年退官された時、天文台職員が贈ったピカピカの真鍮製の写真天頂筒「PZT」のレプリカも合わせて展示されている。この写真天頂筒「PZT」は昭和27年(1952年)～昭和64年(1989年)まで日本の時刻を決めていた望遠鏡である。

しかしながら、この布袋像展示は筆者の「いたずら心」ではすまないようである。「天文機器資料館にはそぐわない展示である」などいろいろご心配をいただくようになった。何とかしなくてはならない。日本人は宗教に対して非常におおらかな人種であり、「八百万の神」で何でも神に出来る。昔の偉人を祀る、大きな岩を祀る、水晶玉を祀るなど、これらは他の宗教にある「教え」というものがない祀り方である。布袋様にしても御利益を期待する御仁もいるかもしれないが、筆者には全く宗教心がなく、元天文台教授の書斎にあった置物という以上の感覚はない。

といったような布袋像の展示の経緯を説明しておくということでご勘弁を願えないかと思っている。

せっかくの面白い展示をしばらく続けさせてはもらえないか！

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp